

令和 2 年度 事務事業評価シート

事務事業の概要・計画 (PLAN)

事務事業名	豪雨被害に対する総合的な産地再生対策事業	会計名称	一般会計		担当課	農業振興課	
		予算科目	6 款 1 項 3 目	事業番号	2501	所属長名	窪田春樹
事業評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 評価対象事業 <input type="checkbox"/> 評価対象外事業 (事業の概要・結果のみ)				担当責任者名	中塚正洋	
法令根拠等	伊予市経営体育成支援事業費補助金交付要綱				実施期間	【開始】	令和/平成 30 年度
総合計画での位置付け	産業振興都市の創造 魅力ある農業の振興					【終了】	令和 2 年度(予定) <input type="checkbox"/> 設定なし
総合計画における本事業の役割	農業における新たな付加価値の創出に向けた環境の整備						
事業の対象	被災農業者			事業の目的	甚大な災害により担い手の農業経営の安定化に支障をきたす事態が発生し、農産物の生産に必要な施設等の再建に係る経費を助成する。		
事業の内容 (整備内容)	平成30年豪雨による災害については、事業費の9/10以内 (施設の撤去等については10/10以内) とする。			昨年度の課題に対する具体的な改善策			

事業活動の内容・成果 (DO)

事業費及び財源内訳 (千円)							事業活動の実績 (活動指標)					
項目	前年度決算	当初予算額	補正予算額	継続費その他	翌年度繰越	決算額	項目	単位	前年度実績	2年度予定	9月末の実績	2年度実績
直接事業費	0	1,042	0	0	0	1,042	果樹棚再建	棟	0	1	1	1
財源内訳	0	808	0	0	0	808						
国庫支出金	0	0	0	0	0	0						
県支出金	0	0	0	0	0	0						
地方債	0	0	0	0	0	0						
その他	0	0	0	0	0	0	果樹棚撤去	等	0	1	1	1
一般財源	0	234	0	0	0	234						
職員の人工 (にんく) 数	0.00	0.01				0.01	果樹棚内土砂撤去	㎡	0	500	500	500
1人工当たりの人件費単価	7,992	7,812				7,812						
※ 直接事業費+人件費	0	1,120				1,120						
主な実施主体	被災農業者		実施形態 (補助金・指定管理料・委託料等の記載欄) 補助金									
向こう5年間の直接事業費の推移 (千円)					3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	5年間の合計		
					0	0	0	0	0	0		
成果指標	指標	果樹棚 (キウイ棚) の復旧を目指す。	単位	⇒	区分年度	前年度	2 年度	- 年度	目標	2 年度		
			棟		目標	0	1		1			
	指標設定の考え方	復旧予定果樹棚数	実績		0	1		1				
	指標で表せない効果											

事務事業評価 (CHECK)

新たな課題や当初の改善策に対する対応状況 (今年度の途中経過)		H30.7豪雨災害により被災した農業用施設 (キウイ棚) の復旧を完了した。									
事務事業の評価	自己判定 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。	4	合計点が	A	事業成果・工夫した点	苗木発注のタイミングもあることから令和2年度の作付けに間に合わせる事が出来た。		
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1 社会情勢又は行政事務に於いておらず、見直しが必要である。	4						
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1 今は関係しない、民間や市民団体等に委ねるべきである。	4						
		有効性	事業の効果	5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。	4	合計点が	A				
			成果向上の可能性	5 4 3 2 1 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。	4						
			施策への貢献度	5 4 3 2 1 施策推進につなげることができている。	4						
	効率性	手段の最適性	5 4 3 2 1 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。	4	合計点が	A	事業の苦勞した点・課題	甚大な気象災害に加え、2度の事業繰越が農業経営に与える影響が危惧された。			
		コスト効率	5 4 3 2 1 活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。	4							
		市民 (受益者) 負担の適正	5 4 3 2 1 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。	4							
	一次判定 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。	4	合計点が			A	事業の方向性	■ 事業継続と判断する。 □ 事業縮小と判断する □ 事業廃止と判断する (判断の理由) 本事業は、被災した農家が営農再開に取り組み環境を早期に整えるとともに、被害を受けた作物の減収を最小限に抑えるために実施する事業であり、効果が認められるため事業継続と判断する。
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1 社会情勢又は行政事務に於いておらず、見直しが必要である。	4						
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1 今は関係しない、民間や市民団体等に委ねるべきである。	4						
有効性		事業の効果	5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。	4	合計点が	A					
		成果向上の可能性	5 4 3 2 1 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。	3							
		施策への貢献度	5 4 3 2 1 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。	3							
効率性	手段の最適性	5 4 3 2 1 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。	4	合計点が	A	所属長の課題認識	本事業は、①直ちに必要支援と②早急に必要支援とに区分される被災対策のうち、過去に例のないような甚大な気象被害によるものとして、①として実施するものであったが、H30は農業用資材の入手困難による繰越、R元は県道災害復旧工事の遅延による繰越と、止む無き事情にて2度の繰越となるも、被災農家等への適切な情報提供により、意欲ある経営体の確保に繋げることができた。				
	コスト効率	5 4 3 2 1 活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。	3								
	市民 (受益者) 負担の適正	5 4 3 2 1 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。	3								

施策を踏まえた判断	二次判定	<input type="checkbox"/>	一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。	⇒ 指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。
		<input checked="" type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業継続と判断する。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input type="checkbox"/>	既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。	

行政評価委員会の答申	外部評価	答申の内容
<div style="border: 1px solid black; height: 100px;"></div>		

今後の方向性 (ACTION)

の経営者判断会議	事業の方向性	コメント欄	
	<input type="checkbox"/>	さらに重点化する。	<div style="border: 1px solid black; height: 100px;"></div>
	<input checked="" type="checkbox"/>	現状のまま継続する。	
	<input type="checkbox"/>	見直しの上、継続する。	
	<input type="checkbox"/>	事業の縮小を検討する。 事業を縮小する。	
	<input type="checkbox"/>	事業の休止、廃止を検討する。 事業を休止、廃止する。	